秋近

傾城賛

六月の太夫となる女羅漢

鏡見てみる程遊女の秋をき

秋々〳〵七夕まつる小仏堂

赤蜻蛉の群の作庭の秋をき

松が根に小菊さく　秋陳　碧○

山里の秋を陳に書をつゞ

仏を乞ふ物乞ふ春を枕園に落て

秋々〳〵桂板を焚るおれば

夏雜

黒塚の人筆にむらがる蚊の蜂

憚ら〳〵や其を肥たる小仏堂

根岸子庵

十茎や蕅の若葉の庵の庭

蕅の松百年たゞ頃ふて

人屠の子小孔も出で蚊ことし

仙蓋南山園

四方から青みし蚊の形ゆく

関山哉

はの暗きとんねるの内ゲバ蚊ち

夏部

この夕秋立つとふよ
ずんずんと暮を流すや最上河

酒田翠松館（東は家屋蜃を並べ西は大海洲をとて際なし）

前後熱さ涼しさ半分で

瘧疾の時達磨の像を畫して
此暮を我と達磨の寄さん

南洋人の物園を送るとて

椰子の陰に活れ牡丹を芍薬を
山を入れ伽藍をいうて夏景色

やぶ入や真書中の閻魔堂

夏部

短夜

短夜や夢のよりどころ星の先
短夜や枕ならぶ早出帰り
短夜や逢阪こゆる牛車
短夜や[illegible]
短夜のうらに眠む仁王ル
短夜の雲をまくらにあたらね
短夜の雲しうらば信夫山
短夜のまことをしる石一枚書
短夜や墓船の笑に歩みけり
短夜しあるうきまゝ東より

夏夜

猫の尾の短夜明けぬ蔓不

朝妻船賛

短夜や汐の花乃ある早し

芳原

短夜ハ大門に明けてしまひけり

傾城賛

だまされて夜ハ明やすし絹蒲團

傾城をよぶ夢の夜ハ明けぬ

猫鼠画賛

ねらひしも夢となるの夜ハ明けぬ

熱

あら壁に西日のほてるあつさかな

松陰ハどこも銭出すあつさかな

送秋山真之之英国

熱い日は思ひ出だせよふじの山

熱さかな八百八町家ばかり

病中

ぐるりからいぢらるる熱さかな

犬の子の草に寝ねる熱さかな

昼顔の花に皺見るあつさかな

はらのさまる茄子の[illegible]

[illegible]

やうもちのき　おのあつさ

雨ふりあつさをなぶる山ふし

旅中

我親なしい葉代も出さぬ蝉

■村市

やせ馬のあゆみならべるあつさ

一やもの毛のぬけてもうこき蝉

[illegible]

炎ふくふいごの風のあつさ

岩代こまつ松

蟬鳴りすぐてひつしこまつ

蟬茶屋のはたらきみるあつさ

雨雲の海になりゆくひつさ

白蛾ゝとあたる蝉さわ

蝉き松の揺らぬまの風こまつ

[illegible]

書時に酒しらるひつさ

[illegible]

仙臺愛宕山にて

小天狗の扇子息つく熱さかな

[illegible]

旅先の車夫汗くさき通りかな

[illegible]

車夫歎

[illegible]にしまれんと思ふあつさかな

旅中山の清水に[illegible]を洗ひ
それを[illegible]に結びて[illegible]ながれく

[illegible]

手荷物にふんどしさがるあつさかな

道ばたに瓜の[illegible]ちるあつさかな

[illegible]引きゆる荷車に従徒二人
[illegible]のりたる[illegible]して

従徒のゐる子おみてるあつさかな

ゐる娘の傘をたたみぬあつさかな

馬車旅先ふさぐあつさかな

[illegible]のほの暗き[illegible]

[illegible]

夕まぐれ馬ひる町のあつさかな

腰痛に帰られぬ故郷の熱さかな

みちのくも町あれハ小町の暑さかな

旅宿にて

くびれ死ぬと書いふ宿の暑さかな

あつまれや天竺牡丹日でり草

昼顔ハしぼむ日もなきあつさかな

[redacted]

[illegible]

裸身の壁にひつくあつさかな

牛部屋に西日さしこむ熱さかな

吹く風の止る間こもりて熱さかな

空晴れてあつしや岩も松も熱し

[redacted]

枯になる木にも蝉なくあつさかな

洋犬の耳を垂れたるあつさかな

のら犬の流しに寝ころぶあつさかな

よつ子の庭に洗ふあつさかな

も熱し泥てぞ出よかしみん

一しきり[illegible]の[illegible]し熱さかな

国立国会図書館　タイトル『寒山落木 : 1-5』 請求記号 WB12-19
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『寒山落木 : 1-5』 請求記号 WB12-19
ガラス使用

清音のみにてこそあらざりし　興されし
[illegible]
湯ばのさばれて興し一休み
油画の彩色多き作られ
[illegible]
附きとてあまり人なき興されし
小さき無線の機械をのぞく者らに
陀既一つこれさへ黒き書き出に
入札をとりの[illegible]あつまれ
[illegible]
屋根葺のり場へよりなはつされ
さゝらゝの蒲團木枕並べあらし
[illegible]
[illegible]
上家に内案見られてあつされ
[illegible]
あつまりおれるもぬれぬ女客
新らしき遊女の罪のあつされ
似体よりつわりのなき興されし
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『寒山落木 : 1-5』 請求記号 WB12-19　ガラス使用

[illegible]の[illegible]顔にあつい[illegible]
西方の[illegible]千重の奥ふかき[illegible]
我宿の[illegible]のなつき[illegible]
[illegible]
真白に石[illegible]きのなつき[illegible]
[illegible]
観音に人間のうつ[illegible]
[illegible]小城よりあつき者なり
[illegible]つまり仏道[illegible]四恩[illegible]
[illegible]土[illegible]の多きなつき[illegible]

真書的 弟子の[illegible]のあつき[illegible]
[illegible]底 未[illegible]ずしー熱さ[illegible]
[illegible]
大仏[illegible]のかねなる[illegible]
[illegible]
小松[illegible]のなる[illegible]
[illegible]仁王の色のあつさ[illegible]
[illegible]の[illegible]きなる熱[illegible]
[illegible]尺[illegible]熱[illegible]
[illegible]

人にかすみとはいへども

金銀の禍にあつき地獄

南洋人来朝す

椰子の実の裸でもたるあり

病中

形骸は骨とはなりてさへ

生涯の夢の大原の

国立国会図書館　タイトル『寒山落木 : 1-5』 請求記号 WB12-19　ガラス使用

炎天

[illegible]

炎天の色やちくしの流○

炎天の中にはつちの富士宮

炎天や俳句の車の砂路く

炎天や青葉に暮れし人の顔

炎天や出雲[illegible]の数

炎天をわたる風吹くの只一羽

炎天やあるき疲れの[illegible]

炎天や本にもるきの[illegible]

関山隧道

[illegible]なる山清水

[illegible]や　塩釜神社

炎天や木の[illegible]ひしゃる石だたみ

日盛

日盛りやうつとなる波の鞭

日盛りや[illegible]人の門[illegible]の大砲

日まるに兵卒出る仲の所

旱

多虹の雨ふるたうとき旱かな

土用

松蔭の松見たりうん土用の入

[illegible]

板の実の青くて涼き土用かな

松蔭に風[illegible]板のきの土用かな

[illegible]

涼

涼き高殿の夜中の水花音

夜もあけぬ事も[illegible]ぬ門涼

高涼　所記ちつて枕ぐ

涼さの音をみす杉出る月

むさしの平面くすしき三るの月

涼居をれわびる能登中

画賛

すゝきを四文にまるて涼しき

宇治懐古

涼しさや川ぞいに馬もなし

嵐山

源たかもとる桜机か那

太神宮

杉木立たつくものうらすし

人よ対して

源ひかり屋とれ世の海乃中

久米平内像

すしけるを平内石とをりみる

[illegible]

硯賛

すしをあを源き起る海を寸

るがるぐ民能服ぬの小西乃

屋をゆきて一白をすす

源ひかり見い御ぬを夢ゆくん

天狗が住るを未だの冒をを新す

すしけるを氏を冒を雨を（ぬきすすず

其氏直三

源を池あり木なり看帰く

源を上野の森も乃中

碧

素香沼松二氏同伴

すゝちやみに二人の客を伴ひ

[illegible]

[illegible]原一川の向ふの美しき

[illegible]を踏まる和名松の先

ある人のもとまで

送り人はまる此敵のすゝーさと

[illegible]

[illegible]

細さぬ[illegible]なる[illegible]

[illegible]

白河城氏城址

すゝきもうの人の汗のあと

[illegible]川さや馬つなぎたる柳桂

[illegible]

浅香沼

すゝきの只水ゝこさき自ひえ

[illegible]員ふて賀中みまじ数の[illegible]

二本松満福寺

すゝきさや神と佛乃博士

黒湯三

木の間あらの湯や高らーや
すーさまの宮けで苔ハ鬼の乳

満福寺ハ寺

御佛に成もけんば月源し
寺に居る方の前さと湯さと

逆さ

郎介

月源一陳の夢のわきちぐる
笛の音の湯うつるなるなり
すーさハ恵の湯ハ白川

福沼笛

足ヒ世ハ月にすーや四千軒

福沼恵摺の古跡

湯さの芳をかれーのぶず
うぶよ湯ーの方の大臣

十綱の橋

つり橋に乗て湯るの行

出石代国湯郷村

すーさ湯ほどでーる歌の風
湯くもからまたとる月白川

七月廿三日出石代飯阪温泉場夢中の句

涼しさや羽黒の山のさらなる脳の下

箱根乃社神にて

乳ハたゞ旅すゞしの仏と行る

拾雲和尚ゆゑ温泉をめぐりて

涼しさの形ありうるき夢うゝ

いと雖う涼

涼しさのこゝを扇のかなあかれ

涼しさや四もあをなる杭の先

涼しさや蓮生帆中帆

塩竈に雨うそ

涼しさや浦かりしかの苫こそ

松嶋雑詠

すゝしさの眼にちらつくや五松路

すゝしさや左

すゝしさの鳥にまぎれうるる

すゝしさや帆を出帆を百姿

すゝしさ見ゆるうるる松路

涼しさや松有り月の言ふ

松島

海さやさに月なきよ松島
海まの月のあて冥々よ松島

[illegible]

すしさや海かるさふきて松一つ○
すしきれたる海ずりの小島ら
ましさや海ちり松あり毛帆のか
すしさのはなれあれ)よ松島
海さや名ハなくもがなのよ松島

松島観月松
[illegible]

瑞岩寺高

[illegible]寺
[illegible]門もこひしも苔の花
緑の苔の[illegible]すし松ホ立
松島五大堂高
をさ格に見のふ吹く風涼し

[illegible]
海さや海かちの多へ格つひ
海さや海ちもたちつく立も
[illegible]ちちく人[illegible]すし立も
海さ和画にて[illegible]ると立も

雄嶋

[illegible]の[illegible]何本か
[illegible]さを[illegible]に[illegible]
富山[illegible]雪[illegible]より松[illegible]
[illegible]原[illegible]
[illegible]
[illegible]
ぶやと[illegible]
[illegible]
[illegible]人が云[illegible]
[illegible]原[illegible]

[illegible]りにある[illegible]の[illegible]川[illegible]の松
山[illegible]
[illegible]原[illegible]
多賀城の[illegible]
[illegible]同じ[illegible]年の風[illegible]
仙臺[illegible]山岡
[illegible]原[illegible]
[illegible]原[illegible]の[illegible]
政宗公廟お
[illegible]

二階からつゝむ木の葉や風の音

南山閣 二句

すゝしさや此山なかの一つ

[illegible]

槐園におくれて南山閣を訪はず

すゞしさを君一人にもどしおく

涼しさや山の下ゆく川つゝみ

一ゐる子頸のはるかに涼し木下闇

風涼し館の一間を吹き通る

上下の涼みの中を袖すゞし

作並温泉 四句

涼しさに水もぬるく湯の流れ

ちろゝゝと燈火涼しや山の家

涼しさや川瀬つたふる夜の山

窓あけて寐てあゝ涼しや桜の花

背あふけて錦すゞしや山の上

寒山松

あゝ涼し木を伐る山の奥涼し

夜涼風月涼しくて山すゞし

雲をぬけて寒山つきせず袖涼し

[illegible]

寒山越に古風なる行をする女を
見てよめる
行ばなく見るとは深し青ぶり
寒山越の隠居を
深き谷羽衣をのぐ山の穴
隠居にうつる吹くれすり
隠居のたるに人の寄すり
すしさや寒山こそてりそる
すしさを砕けてちるか滝の玉
行もなくなるすしまを用ル

深き谷青田の中乃一つ松
多ちにちらと深一つ星
出るともす一村深山の陰
[illegible]
風雅のほのかたすし乃奥
すしさの一筋もし宮上川
すしさの宮をすす小舟ル
すしさを見ぶらさげる水の中
とちらを吹くれ庵の深きし

青豆幹雄江戸三老人と同坐して
風流中に於て頗なき一人なれ
ども俗を忘れて翁の帰りを待つ
すしさやあるべしつつの舟枕
すしさやあのあるやうく小毎京
すしさやあ月みなかりけく面の春
すしさやあ小舟のうこむ苔の中
すしさやあ俳の真上の天の川
王子松宇亭
すしさやあ傳えつぐ正一位

品川
原さやあふたる一廊
俳堂のたて小原き色小
権現森夜丙王子八景一
闌てみて原や闌の一面三更
原さやあ男の牛のうな
原さやあるをぶ牛乳川の中
原さやあ牛の大小川
原さやあ生つるて義中
牛の世て原や臣の原一

白柏子賛

凡庶ハ水干を[illegible]

庶さを裡で[illegible]

草枕庶ハ三千の姫小松

庶さハ大和[illegible]

庶さを上[illegible]下[illegible]

布袋庶ハ袋の[illegible]

庶[illegible]

庶さハ[illegible]ゆらゆら路ハ

庶さを合[illegible]

[illegible]

碧○

岩三方聳立る雲庶ハ

風吹てちら〳〵庶の庶さよ

庶さを芭蕉も神ふぶられて

一つ〳〵吹る風庶ハ笛の孔

庶さを糸を[illegible]琴

庶さを引なら舟の中

照射

雨雲のうらに照す照射

一里来て二里来てうつる照射

俗世の夢に似る照射

誰いつの猟夫の性をよすて

獲物多き照射の夢ぶまるり

火串

火串もつて闇の真中を走り

鵜飼

信濃玉の闇の色なる夜鵜

風吹て蛍の〜らき鵜川

傾城の娘も鵜匠

鵜飼舟雨に濡るる川さよ

面白やをつと放すばら鵜も

書の鵜の来てとまりし牛の鞍

闇の夜を鵜飼の書の泣くひの

川狩

川狩や孫指さして水の中

藻刈舟

藻を刈るや女にばけるのら狐

藻刈舟面白ゆりけも

真菰刈

物いへぬ女なりけり真菰刈
笠菰負ふて生菰をまとめる真菰刈

田植

兼平の塚を目あてに田植小
赤坂の市油へつゞく田植小
日暮田に賞味なくも田植小
仏立を着て誰に田植の落化粧
鴻百姓書ハものくもき田植歌
八重さくら
そばふる
ちらこちらの田植歌

早乙女

画るかけで苗笠ぬぎ植をゐ
さをとめの泥ぬ生えし笠の色
さをとめの牛小国すり黒きもの
さをとめの一寸小溜る小道小
さをとめのなぶり笠を脱ぎて

田草取

淳車小くるひしんと立なる田草取
背笠もこぶ田草のふるび小

竹植

牛植ゑて小竹さ笠の青こ小

藥日

菖蒲刈

菖蒲酒

菖蒲太刀

幟

菖蒲湯

菖蒲湯の中に交りし菖蒲刈

屋原八下戸なりけらし菖蒲酒

いとあつき児のあつきや菖蒲太刀

幟たて嵐のはきるあるなる

雨雲をさそふ嵐の幟かな

碧

送彼男之風防
山里の憶見て来よ　京男

藥玉

藥玉のふさふりたぐるかひ
藥玉にかりんしたる秀か

粽

[illegible]
紙巻をかむらとりたる粽か
露ふることもありしの　笹粽
風吹て粽の葉ひらく花かな

印地打　堰のるや男女ふれて印地打

騎射　騎射の面　あつめて　物語

競馬　風吹てはこうにいさむ競馬か

大矢数　大矢数中にすぐりて山法師

鞍馬　鞍馬寺　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花御堂

王城の見書に出て花御堂
大佛の葉に低し花御堂

竿のつゞ風吹て花ゐる竿のつゞ

夏詠

夏詠に痩せる売のあれなり
夏詠の[illegible]
二人ならむ夏詠りさんとそひろ
君今夏に詠るとゆるとる

置物蓋賛

夏詠りの[illegible]に向ふ[illegible]ふやいむの卓の上

夏書

[illegible]
稲多の子の中[illegible]夏書[illegible]
[illegible]

夏断

虫干

虫干や牛を飼ひたる先祖あり

虫干や幻住庵の義と笠　碧

虫干や伝蔵の書の数々

虫干や遠き書と遠き書と

土用干や裸になって旅こころ

虫干の風よ苔のにほひかな

虫干の魂入れる鍵かな

風ふくや土用干

無つりの釣の具多　土用干

瑞岩寺

改宗の眼もあらん土用干　碧

雨乞

一山をこぞりて雨の書屋かな

書寝

抽斗を心の盧生に似たる書屋

昼寝の腹を風吹く書屋かな

富士詣

傾城の書棚あつし雪信風
不二詣 水無月の雪に魅もうれ
不二詣 鳥の鳴あり秋清し
短夜の限りをうんなり不二詣
月もいも夢の下なり不二詣
[illegible]
紅の朝日すじ下不二詣
うたゝねの夢ゆ攀ぢり頭の不二
帳一つ居ぬ下界を見えて不二帰し
不二拾離にゆめべの夢を法ひり

富士拾離

祭

祠堂の御[illegible]くるてある[illegible]
夕立の文とゞけなる[illegible]
[illegible]
根[illegible]
[illegible]
錦着て牛の汗かく祭りかな
牛ひいや京の祭の桜哉

碧○

滝泳

仙堂愛宕山眺望

川中にあるそゝへてなまぶ

祇園會

祇園會や小路くの人の機
祇園會や祭の上手京の月　玉石
月祭や京に絵ふひ鳥
入れのなりくくを祭の兒

晒井

晒し井や的瓶にわたす五年桝
晒し井や縄引きあます素麺

筑摩祭

納涼

不二見えて公の見樽の浮みけり
根岸なる要にもれて端涼
黄山谷経伏初詩
雅貞詩画

山僧の市へ出でたる紙漉き
松蔭一見さんとて上野の淫
よりて
みちのくへ流るる水の流れて
二本松満福寺
はいて
流しまに僧と二人の流れ
福嶋
公園に旅人ひとり流れ
飯盛山
不動山に流れ

飯盛山に登りて十六士の墓参りて頭
上に来園のるなどやるくらけを出せば
滝沢の志あるとゆ仏塔に会りぬ
志をあるく滝なるつぶれ其
名をとへば平家となん答へる
平家とあるかが語るすみれ
其羽(勇敢)を迎え仏元元元
ひきつるい宿よおちつくすそうれ
仏元元元元元元元元元元元元元元
月の陣で魂松蔭にすみさん

松浦　三句

[illegible]

松浦の富をつくしてゆたかなる
[illegible]

[illegible]

松浦を国のくすびしたまふ
[illegible]

[illegible]

[illegible]

松浦　観源寺すに迎びて豊臣伊吉
毎日を信ふ　三句

[illegible]

なま人を[illegible]

松浦五大山
松の木を叩いてはいるすみうれ
富美観寺にて
松浦に[illegible]

[illegible]

政宗公廟にて

涼しさや君と話さん一書生

仙台旅宿斜川にて

すゞみ四角な庭をながめけり

金華山渡舩中

木のもとにふんどし洗ふ涼しさよ

天童楢園遊会の茶屋にて

掛茶屋の風通ひのすゞみかな

~~[illegible]~~

~~[illegible]~~

下涼み牛飼牛を放ちけり

夜涼みや川に落ちたる人の声

~~老涼み[illegible]~~

~~[illegible]~~

~~[illegible]~~

~~[illegible]~~

蚕の子の遊女うらやむすゞみかな

~~[illegible]~~

丸山に舩の日利のすゞみかな

山椎の木陰に綫のすゞみかな

国立国会図書館　タイトル『寒山落木 : 1-5』 請求記号 WB12-19

ガラス使用

御堂の前に置かれて夕涼を
楽しんで頭の風呂を涼を
川中に二人立ち夕涼を
御堂の西を[illegible]夕涼を
旅人のうて酒[illegible]船
城跡をよき涼[illegible]所宮の下

[illegible]

食事を出て涼を[illegible]
根岸
[illegible]の多し[illegible]涼を

澁の川

[illegible]にも澁[illegible]涼[illegible]
酒田翠松館
松の本に投[illegible]夕涼み
夕涼[illegible]山に[illegible]
風節に[illegible]涼み

座頭納涼

打水

打水に小[illegible]の白し
打水や[illegible]

打水や虹を抱出す大柄杓
打水のかゝりたる柳かな
水うてゞだの臺にこぼるゝ

御祓

蔦の葉にかくる市都や浅川
午刻て西へかくる市祓川
瓜うゝ絵の出てゝる市祓
水上に流ふ市祓
風吹て白蛇ゝ市祓

蓴の輪

蓴匠者の先ゞげ一ゝ蓴の魂

夏痩

夏痩を泣てゝ迷女か
夏痩を見て吟かゝる佐衣か
夏痩人の見かけ
夏痩を蓴匠者なみゝ
夏痩を蓴の枝よ泣なり
夏痩や男のたゝりおらしき
夏痩の俤蓴の葉に高そゝんは
夏痩のつゝみて表あり詩

汗掛

汗掛を見て干しけり忘掛

更衣

[illegible]ちぎるおもしあるうち　汗拭

風吹て[illegible]どんとぞふる　衣かへ

天竺の佛は何を　衣かへ

[illegible]へはすぐでもうえうえ

[illegible]を干すわ[illegible]の衣かへ

うきうきたらて[illegible]　衣かへ

[illegible]仕様[illegible]　衣かへ

何時くと[illegible]　[illegible]衣かへ

袷

[illegible]

衣かへ[illegible]袷を[illegible]

うらうら[illegible]の[illegible]て　袷

老僧す[illegible]　袷

[illegible]　袷

松[illegible]ようとき　袷

[illegible]た人も[illegible]し　袷時

白雪

山風のうれめぎすてよ笛の

単衣

更衣

笛別

松蔭の風に吹うれん笛の

実方の墓にまでも水鄙の末

をしのぶ

旅衣ひとへにわれを護り給へ

帷子

川風にたゞ帷子の一重うれ

帷子

帷子を干すも川の白波

帷子のあさましきまでの廣袖

家無に姫ゐたる浴衣

浴衣

竹婦人

旅宿に浴衣の乱れ

辻の花

袁公義

小雨ふるまでの辻の花

掛香

掛香車すりあるまで

青簾

[illegible]

[illegible]

松山雪

伊陽の名乃り[illegible]あひ[illegible]書簾

簾草

簾草　見のいばゝの流れけり

[illegible]

竹婦人

[illegible]

[illegible]

碧〇

国立国会図書館　タイトル『寒山落木 : 1-5』 請求記号 WB12-19　ガラス使用

蚊遣

風ふく戸口に蚊ひとつなく夜をあ
はれとおもふにもまた蚊をあ
山寺の方よりはきは蚊をあ
大津絵の赤鬼いぶす蚊をあ
蕎の花にかすかなる蚊をあ
低地のしつくにくるる蚊をあ
何思ふ人の遊女の蚊をあ
低地のあぶらあらぬ蚊をあ
門前の畑にわきたる蚊をあ
蕎麦まき作りて乃蚊をあ

蚊をあらぶ老たるつまの蚊をあ
画姿に誰の迴向の蚊をあ
閑寺の女ぶりくべる蚊をあ
蚊遣火の庚申の後夜の蚊
児帰て蚊遣の煙 夏くら
[redacted]
[redacted]
盆栽に蚊遣の煙うすき
松宇亭
楠干るの蚊をあ
伏屋の蚊をあ

蚊帳

[illegible]

能因西行

蚊遣や長柄の杓の鉈屑

[illegible]へ机も[illegible]蚊帳に

○疱瘡病て[illegible]の[illegible]蚊帳に

はつ[illegible]に林檎くふ[illegible]蚊帳の中

碧○

蚊帳

蚊帳の風吹きまはす[illegible]

松鳴客舎

蚊帳つれば蚊帳に吹く松の風

紙帳

紙帳の又古すぎる[illegible]

帽叩

山寺の庫裏ものこり[illegible]帽叩

寺の庫裏に[illegible]を入れたる帽叩

山寺や[illegible]の[illegible]の帽叩

○鮓[illegible]四[illegible]蚊帳の外

蚊帳の風吹きまはす[illegible]

松鳴客舎

蚊帳つれば蚊帳に吹く松の風

紙帳

紙帳の又古すぎる[illegible]

帽叩

山寺の庫裏ものこり[illegible]帽叩

寺の庫裏に[illegible]を入れたる帽叩

山寺や[illegible]の[illegible]の帽叩

国立国会図書館　タイトル『寒山落木 : 1-5』 請求記号 WB12-19　ガラス使用

扇

主人は男もやさし絵扇
[illegible]やぶれ扇
謡ふ子ら扇なる扇の絵扇かな
草鞋とけてれにくいへる絵扇かな
かゝずとも顔に似たる絵扇かな
夕涼小魚のすたる絵扇かな
俗様にもかく[illegible]絵扇かな
俗様にものかゝれたる扇かな

富山より松嶋を望む　二句

西は絵扇松嶋は其[illegible]
松嶋に扇のまゝしてながめけり
坐ながらも扇投げたやる小舟かな

團扇

寒[illegible]團扇のせて嵐かな
我宿やはたうち團扇かな
夏痩の骨四四しき團扇かな
[illegible]居て[illegible]團扇かな
傾城にあふいで居る團扇かな

根岸

妹の多きひよおく多き團扇かな

●芭蕉園扇の句に薫りあり

足駄きふかなるもんぺ日傘

日傘

京へ出る新茶の荷ものの蔵子

新茶

旅信をまづこむ唐の新茶哉

古茶

壺の底なつかしくやたもと茶の匂ひ

柏餅

仙境の名ゆかしき柏餅

鄭

鎌倉や誰が石ずゑを鄭の壁

人間ぐ鄭度の表と茶ふべし

旅信より鄭魚とはたずまちかな

[illegible]

青さ

青さや清少納言ものすり

夜涼

[illegible]

夏氷

氷屋に白きお中の小提灯
おにうける氷の旗や荷い茶屋

[illegible]

病中

[illegible]

仙蓋雲岩

叶ふる人見ゆわれい氷水

本庄古雪川

[illegible]

[illegible]

冷麦

冷汁

洗飯

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

満福寺に宿る此寺にて義経飯を食ひたる由来あり

○氷飯や弁慶なの笠ひ[illegible]し

[illegible]石○

沖餘

沖餘しくるあのあかるい

心太

道灌にすくめられし
先の清水に立ち心太
連ハ 馬の鼻息 心太
遠くの面白沖月にかなしん心太
[illegible]
心太水にもたならずはけるか
心太 [illegible]
立ちながら [illegible] 心太
[illegible]

送之奥州人

五月雨

[illegible]
五月雨小牛の角乃如牛
五月雨や 杉端を渡る波の音
[illegible] 五月雨
一掬を雨黒にうるひかり
玉川ハ布ゝ雨面の日数ゝ
並杉のくさるうるふ五月雨
五月雨や長ぼそ上る草苗
[illegible]
夕ゝのまらぬ雨のうれかめ

梅の沸し障子の外を螢とぶ

~~[illegible]~~

~~[illegible]~~

入梅の中一人静かなり法花堂

蝸牛の角のぶ沢や五月雨

~~大神宮~~

~~[illegible]五月雨~~

画賛

さゝ竹やりつまの虫も是悪しなし

~~[illegible]~~

~~五月雨[illegible]~~

限りなき海のけしきや五月雨

~~五月雨や[illegible]~~

~~[illegible]~~

王子

一村は杉の木の間に五月雨

~~五月雨や[illegible]~~

~~[illegible]~~

傾城画賛

五月雨や小傘にあまるみの丈

[illegible]
道ふさぐ水のたゝわる五月雨
壁をもる牛の白い下五月雨
驚ろかで牛居る濡れる五月雨
五月雨の気ぬけをする夜寒かな
面白ゃ牛のうゝいも五月雨
五月雨や角になるぶ杉の苗
[illegible]
五月雨たゝ雨のかゝりてやゝ晴る星
五月雨やくゝんだ苔の花の書

風吹て晴ぬんとすゝ五月雨
[illegible]
[illegible]
[illegible]

瘧疾はかりて
[illegible]なきを五月雨の照り
五月雨や笠根にかゝるちんば馬
五月雨やとも火ともえ藪の雨
帽牛の堂[illegible]ん五月雨
五月雨やだまして番をる女

水瓶ゑ蛙うくなり五月雨

五月雨や朝日ノ影の少しつゝ

五月雨の崩れもやらぬほこりかな

五月雨の中に天山星ぞ見ル

五月雨の茶からもたまる日数かな

○五月雨の隅田ゑる出る戸口かな○

退屋や糸のかにもゑみたるゝ

五月雨の星駄買事忘れたり

五月闇

三吉斎こゝ冷事こゝ也 青虫

病中

夜も書もうらゝと立方閑

五月闇あやしうぬれ端ゑ

杜朋閑 箕後の大寺あらんとゝ

青閑 ゝうゝの地蔵かな

木下

五月晴

[illegible]　五月晴

[illegible]　五月晴

病起

順の[illegible]に風あり　五月晴

夕凪の苗[illegible]る雪や　五月晴

五月晴や[illegible]けば上[illegible]

五月晴や[illegible]あつい天竜[illegible]る

五月晴や病の世の西日哀

大磯の[illegible]ぐり[illegible]雨が雨

夕立

夕立や屋根葺すむ強風の隙

夕立や沖ハ[illegible]の黒帆かな　帆

夕立や幽かなる牛車

夕立や[illegible]

夕立や[illegible]る柱の松

夕立を見下す湯婢の二階哀

○夕立にうろ[illegible]鯉のかしらかな

[illegible]ばハ夕立わるる[illegible]

下駄[illegible]

夕立や[illegible]

国立国会図書館　タイトル『寒山落木 : 1-5』 請求記号 WB12-19　ガラス使用

遠藤菊氏の家に宿りて

夕立に宿をねだるや蕎麦の花

岩代国飯阪温泉

夕立の下に迷ふや湯の煙

夕立や人多き温泉の宿

夕立や雲に隠れし人影

夕立の虹こうらへよろよろ松の

南山房

夕立や

夕立や雁木に牛の角

夕立の雨に乗りて柱木戸

夕立や村

夕立や宿屋の庭の金魚池

夕立の雲に山を下りけり

海原やかへつて遠く小舟

夕立を道ゆくほどの小村かな

所房宮

夕立や紅葉屋を流れ出

多之助衣はぎすてふ尼の寺
多之助下女手紙をうきかけ
多之助箱に押形小作蔵
多之助傘一本を二三人
ものすごくなって多之助山寺
多之助のうしろあれ家かな

旅亭

多之助雨ふる出す下女の鼓○
作並山中
山寺なり多之助雲の立めぐる碧○

植木鉢の紙樓に現れたるさまを
かきたるかに
多之助物をたらちのわきに
多之助物のうちすゝ市の人
多之助傘をたてらつず
多之助のみゝふりけすゝ二の雪
多之助の神しよりよりて樓名に
雨い坊の山に多之つりきに

雲の峰

雲の峰

はへだつ上弦小佳一雲の峰

山を出てからは雲の峰　碧

風袋のうたたちかく雲の峰

直線なる陽の射しかや雲の峰　ヿ

見えるれば松の梢に雲の峰

此樹の山十つあげて雲の峰

新潟にて　雲の峰

此風が吹き出せば　さらば雲の峰

書自分つるの先なり雲の峰

物干のうしろにわくや雲の峰

雲の峰　俳諧の松は遠のけり

雲の峰ならんで低しあの峰

青嵐

十方家眼下に　俳　青嵐

俳車見るべく山を上るや　青嵐

[illegible]

[illegible]

うねうねと山脈　俳　青嵐

風薫

[illegible]

白夏の[illegible]

水上に流れうつる風のそよぐ
新らしき松ぬぐき風うそぶく
松山舎

国なまり松ぬぐき里の風うそぶく
蕉翁曲水の面影を思ひて
夏人の見るとうそぶく風うそぶく
蕉翁の句に戯れに
蕉人のうそぶく風うそぶく

涼風

涼風をあびる木の葉の落ち尽

涼風を帰して迎る
富山越えて
涼風やわれを山から吹下す

夏の月

生たなる涼風ちんの月
木葉を主て林間の梅雨の月
二人出す戸口や夏の月
ゆらゆらく祝言あり夏の月
何陳八拾るの西門 夏の月

夏の月頬黒の多き女哉

夏の星

草枕の我にこぼれよ夏の星

青田

[illegible]

青田あり川あり帆船の[illegible]

[illegible]

青田の風の[illegible]

中をふむ人[illegible]

青田あるそこ[illegible]

町をぬけ青田をとなる[illegible]

国立国会図書館　タイトル『寒山落木 : 1-5』 請求記号 WB12-19　ガラス使用

田から田へ流れ行くなる水の音
夕風の足ゑてねぢれる青田哉
[illegible]の一ひらを形ったる青田哉
八郎湖

清水

女のもちたる柄杓や岩清水
年に月に石をいくらる清水哉
[illegible]度に本葉ふる清水哉
岩のなきを石を踏ぬの清水哉
[illegible]ます山ざくらの清水哉
一筋の筧よりはいる清水哉

武田

岩つりみちけるに沸ぶ清水哉
[illegible]すごき山の清水哉
[illegible]みなる清水哉

夏川

馬方の山で飲ふる清水哉
先へ行くつれもどす清水哉
馬柄杓に草をわけ清水哉
巡礼の死ぬ出てくる清水哉
馬上すりぬ泥ゆる清水哉
書杓差ゑて吹む泉哉
[illegible]のさい砂吹きあぐる泉哉

[illegible]
いやうやう清水流るゝ所
清水にもあり神の名佛の名
千代能の梅すてられて苔清れ
世の中を清水に富めり旅食

作益

山の宿に洗ひ水も清水ゆ
陶の器に水の流れ寄るあり
旅先に器の仕きせ出す清水ゆ

夏川

[illegible]ひそり碁の川
能そなへて訪ふなり碁の川
碁川や水の中なる立岡し
碁川や枕にひゞく山の宿
碁川にそゝぐ雨ゝ下り道
碁川や馬繋ぎなる柳桂

夏山

夏山をあゆみて寺道書講

作益温泉

夏山を廊下づたひの湯気

高山の係うつ[かし]小童うれ

滴山

武蔵の上野の篠ちる

はつ一つ一たる山の中をゆく

夏野

蜜の一年ゑんえゑゑゑゑゑ

ゆけゆけば虫のとびつくゑゑゑ

ちらちらと伏勢ゆるゑゑゑゑ

大磯

低城も石たなりたるゑ野ゆ

氷室

あけふよりはわひやつとわ室ゆ

一山ハ風のひやつくわ室ゆ

杉樹ゆるつのたき氷室山

氷室ゆわつけりく荷馬ゆ

鱒湖温泉

氷室さへあるべき山のりぞゆゆ

鹿な　よべなる袋に落るの女郎花

鹿袋角　一雨にのびるや鹿の角　ふくろ角

時鳥　ほとゝぎす白ひげ一ぱい

時鳥　鶯の蕎麦のそよぎかな

時鳥　時鳥つきぬのあみ笠

時鳥　時鳥ゑ野でぬれて人ちらん

時鳥　時鳥宝暦計のりぎは

時鳥　三夕の嵐　三夕の面

国立国会図書館　タイトル『寒山落木 : 1-5』 請求記号 WB12-19　ガラス使用

時鳥厠にこもる人いかん
時うるみのん城跡八幡宮の数
塚一つ松一つなり ほとゝぎす
竹垣や傘すぼめる時ほとゝぎす
沛るる長のうち炎明ほとゝぎす
形らんぶたい栄ぢうかたきまた
[illegible]
[illegible]の日記や雨とほとゝぎす
宮居や[illegible]をくぐるほとゝぎす
有明の山八豊後かたきます

なるかれの莨菪圖 梅の花
[illegible]
[illegible]
[illegible]
大佛の鎖乃西の中山かたきます
[illegible]

幽霊図

四枚五枚八枚九枚 彫心

大阪落城図

[illegible]
[illegible]

[illegible]人の[illegible]上を郭公

三平二満賛

床柱[illegible]もうとすだ　郭公

[illegible]蘭画賛

[illegible]

孔子賛

[illegible]

画賛　[illegible]

山畑や真書の[illegible]郭公

うしろもく人もあり[illegible]郭公

裸美人図

[illegible]つける　襖の夜風やなく[illegible]

逆獄男

[illegible]

[illegible]

[illegible]

病中

夜を成る[illegible]菜のしなする[illegible]

五十嵐山破裂書

[illegible]

噴き出す　座の中より郭公

踏をかりやどをしあらはして鶏

金華城の時鳥

落城の時鳥

[illegible]時鳥

金屋に[illegible]時鳥

根山年

我庵小淀車の夜見時鳥

一月に二夜の闇や時鳥

宵寒の[illegible]時鳥

横雲を[illegible]つ時鳥

病人に一つあて時鳥

大原や雨の中より時鳥

君の代の不足をいへと時鳥

時鳥なくや雨雲のほのぬけ

[illegible]の梅しくれ[illegible]時鳥

惟然坊墨書

[illegible]時鳥

[illegible]時鳥

京に市[illegible]誰が[illegible]集

王子松[illegible]

[illegible]の[illegible]根岸へ[illegible]

芳原

廓にハ大勢のさかりかなきん
仏体の耳ぶ度ーかくまで

傾城画賛

る現顔を松ゐにおあてる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

辻占の引ものもしー時鳥

傾城画賛

待ちもせぬ時鳥ゆきすぎ

奥州の墓ハりづくに時鳥

[illegible]時鳥

郭公ゑ[illegible]こそ女物狂ひ

太奉ゆ山ゑ[illegible]きん古遊女

大名の生ゑ[illegible]時のかくまで

春をきのふはゆゑ[illegible]

傾のれ[illegible]時雨の事の時鳥
[illegible]茶臺の上を鳴きわたる時鳥
郭公何の夢見る信濃路
郭公[illegible]顔うに耳のなるかな
郭公[illegible]十五夜の夜の[illegible]
郭公はるなき海へ鳴てゆく
[illegible]見て[illegible]夜の[illegible]時鳥
郭公一声ある十里ばかり
大文字四五日もなくて時鳥
月[illegible]時鳥

時鳥江戸に旅寝の雨夜か
[illegible]人の[illegible]て
月並何をゆるくらんる[illegible]
雪[illegible]れ[illegible]
一の糸ときれて[illegible]
[illegible]
須磨寺に[illegible]ばる[illegible]
一[illegible]
時鳥書もぬれなる寺の屋根
時鳥なくや夜明の善光寺

時鳥[illegible]つ[illegible]里の朝
[illegible]あ[illegible]と時鳥
[illegible]

竹画賛

月おもし時鳥[illegible]風の音

鞭馬

時鳥[illegible]坂[illegible]

画賛

かけ物の[illegible]ゆ[illegible]時鳥

閑子鳥

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『寒山落木 : 1-5』 請求記号 WB12-19
ガラス使用

老鶯

[illegible]

根岸

老鶯 若時鳥 今年竹

[illegible]

鶯音人

根岸

[illegible]

水雞

[illegible]

根山年

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『寒山落木 : 1-5』 請求記号 WB12-19
ガラス使用

行々子

翡翠

方目鳥

浮巣

蝙蝠

松魚

[illegible]

芦原の中にたなびかれてゐる

蔵切り水こつまるのおれきハ

川幅や柳ちらした池[illegible]

翡翠の巣や[illegible]

川せゝやなぶる[illegible]枝の先

鶺鴒ちら〳〵川枝がゝれなびく

旅鳥浮巣にのつて流れゆく

風吹て浮巣流す衛の橋

蝙蝠

蝙蝠や塀のをゞれに月細

蝙蝠や蟹をつかふるかゞり

蝙蝠や辻講釈乃ちゞれ時

漁人の業になるん初松魚

賀を買ひ和松魚

伝蔵の[illegible]名言初松魚

日も格や[illegible]の富士初松魚

初松魚羽が[illegible]江戸の点

[illegible]

初松魚　江戸の口に八四季の花

初松魚すこし生れて

薄名とゝのつて来る　松魚

[illegible]

鮓

鮓たべて月見ぬ夜は

鮓たべて出よるをすけ[illegible]

山里や[illegible]

[illegible]の花鮓

蛇の衣

[illegible]の蒼蠅

[illegible]

雨蛙

[illegible]

[illegible]

蒼蠅

生[illegible]

吹売をたべてゐせる蒼蠅

長居してゐみつぶされる蒼蠅

蒼蠅　唖の姫に向ひけり

蚊

ある人に蚊帳を借らずもがな　蕉

蚊帳なくて蚊の多き夏の夜を何りかく
尼一人蚊の名を問ひけり
日光や　蚊はいとなれぐよい夏
小蚊の色中たて
世の中よりまぐれば蚊のふ
まぐれに蚊の多び出す蒲団哉

蚊

下女部屋に蚊のはつて居る
蚊やり蚊の煙の袖たゝみ
木賃宿に蚊をたせられ蚊の多
松蔭の蚊やりの蚊の多きにて
松蔭や蚊の多きにふ

蚊の多にらんの暗き宿屋哉
蚊の〳〵和尚箱のすき間やれ
蚊をたゝくしりをがいしきよ写和
蚊の面白て其年二人を笑ひけり

蚊の狂ふたそかれ時の化粧かな

蚊の飛んで水の面いらぬ気色かな

待つ夜半を蚊なぶられて端居かな

[illegible]

本堂の隅にかたまる藪蚊かな（蚊のなく真昼かなイ）

[illegible]

暁やまぶし血にあかぬ蚊のうなり

低塀の上をまけた藪蚊かな

老婆訪雀図

血ふくれてはまる蚊のあるきかな

蚊柱

[illegible]

蚊柱や梅の梢にたちならび

[illegible]

[illegible]蚊柱動く松の月

神社新築

蚊柱やふとしきたてゝ宮造り

羽蟻

天人の羽衣すつる羽蟻かな

国立国会図書館　タイトル『寒山落木 : 1-5』 請求記号 WB12-19
ガラス使用

螢

……ず……やれ
ま…ず…の…夜…
羽黒山螢一つ乃闇夜かな
蘆生た螢ゑびを松風かな
雨中に螢一つ乃さゆきかな
雨ふゑて螢のさかなかな
隔り退りて螢閑りて清やせん
風のおかみ螢文はきみゆ
ふれ…ゑ…かる…ゑるかな
あれて来て地荒にとまる螢かな
隔てら退いは往て来たる螢かな
露かりしさきにこぼす螢かな
低城の閑と闇に流す螢かな
…の闇…色…螢かな
風吹てそれぞれつはの螢かな
風吹て松…螢かな
草の葉にすかりてなのく螢かな
螢飛ぶ中…の草のたなきかな

灯取虫

灯取虫 佛の灯たゝ燒かれ
火取虫 書読む人の窓深し
山ゐなかの夜寒 火取虫
俳諧よ死んでゐさう火取虫

蟬

俗世の樓かま 蟬の夢
四人の須磨 蟬の夢
飛びあるく赤に前髪の夢
電信の柱にあつし 蟬の夢
佛あり法 蟬の夢

朝霧や草刈鳴く蟬の聲
葉柳ゝらゝれて鳴くか蟬の聲
杜の下道 蟬時雨
八幡宮 蟬の物哀
うらのうの玉川 蟬の名和歌
帆柱のさきに蟬鳴く 江の
蟬時雨 仰むけば木の空
蟬さゝぐ竿にもつる柳哉
蟬の子色そめて水青山深し
蟬なくや 蟬十搖り 木陰

満福寺

[illegible]の幅にすりあるる木きれ
五六月の頃の時
凡そ八月きものの幅の[illegible]

幅

幅の[illegible]ふ中に酒のむ車かれ
幅もりて[illegible]に[illegible]馬の市　碧
洗ふなる　[illegible]桃に蝿あり[illegible]

紙魚

[illegible]書て紙魚ふ[illegible]に[illegible]　碧

蝸牛

[illegible]

蜘蛛

[illegible]

ヲヲヲ

ヲヲも[illegible]同じ浮世うれ
[illegible]
ヲヲヲ[illegible]なる浮世何[illegible]士
[illegible]

水馬

水[illegible]馬[illegible]て[illegible]

若葉

野の中にやゝ〳〵の若葉が
[illegible]
[illegible]の[illegible]側の[illegible]の若葉
○傘なくむ玄関脇き若葉かな
討死乃あとに残りしむ若葉かな
[illegible]の[illegible]の若葉かな
[illegible]
[illegible]
人もなく[illegible]の若葉かな
落しなき滝つきあの若葉かな

国立国会図書館　タイトル『寒山落木 : 1-5』 請求記号 WB12-19
ガラス使用

若葉ふく雨の奥なり知恩院
雨のなを蕉の遊ぶ わうぐいかな
鳥帰てなを折ちこむ若葉哉
[illegible]
[illegible]
[illegible]
雫せよ若葉ふくの石仏
[illegible]人 若葉のうるとるよう
画賛
あの集のつるみをおむ若葉哉

姫百合の花は若葉哉
たのもしくのびる楓の若葉哉
[illegible]
[illegible]
奥深く殺いろる女の若葉哉
[illegible]
鳥居より内は鳥帰く若葉哉
我を訪ふ故人 心あらふ若葉
山迫て若葉たちあ花の旅
若葉よなあらち花を人を

[illegible]

王子村

[illegible]の中の若葉哉

豊鶴帰帆　王子八景の一

若葉して白帆つらなる川一節

[illegible]若葉哉

弱弱と花を結ぶの画み

うゝき名ばかりなる若葉哉

浅草観音園

鳩の餌を[illegible]のいろよい若葉哉

上野三宜亭文学談話会

[illegible]若葉のもとの出[illegible]

上野公園

[illegible]若葉にこもるとゝ[illegible]

若葉道　曲り〳〵の電気燈

[illegible]

大佛の供たさらなる茂り哉

茂り

び給ひ殘り給ひぬる櫻の花

葉櫻

葉櫻や冷酒あをる舞妓
葉櫻や狂女が着ひの紅扇
葉櫻や落書の簟も木陰にて
葉櫻や砥主仕の面がけ
雨のゆふ葉櫻垂れて傘うつり

實櫻

實櫻や古野の市所に鳥の糞

夏木立

夏木立宮ありさうな屋敷
夏木立一基の墓の生れ出る
夏木立中に稲荷の祠あり
三軒茶屋小見ゆる夏木立
水音の葦はるや夏木立
下草にくゝ入る牛や夏木立
墓ゝ皆原さらなり夏木立
立つて写生の弟子や夏木立

鴻の臺

城もなき寺ふ心こぼちあ夏木立

[illegible]

木下闇

下闇や八町五に大悲閣
牛帰る本の下闇や村一り
仙臺鄭躅が図
兵隊の列白し木下闇

常盤木落葉

蹴雲や凡ふるいこむ松葉
ちりしく松の落葉や雀鳴く

夏柳

葉柳をつかまへかわ小舟ふ
もられて見返り極夏痩女
[illegible]
[illegible]の蛙
[illegible]火の鉢宮ちず夏柳
あらそひのあとにて
夏柳吹くに吹て鳴うなり

卯花

卯の花のかたへ[illegible]る按摩
卯の花の雪[illegible]て水の上
卯の花や町のとまりふ善寺

橋

[illegible]

橋や牛[illegible]

橋や牛[illegible]

橋や風[illegible]

橋や[illegible]

橋

橋や[illegible]

橋や一[illegible]

橋や[illegible]

橋に[illegible]

琴着

橋[illegible]

歌[illegible]

夜芝居[illegible]

橋や[illegible]

[illegible]

[illegible]

合歓花

葉は眠りはぎなり合歓の花
ひるのまま樗の木うゑ合歓の花
月があたるかよ合歓の花がある

桐花

新道や人馬の中の桐の花

栗花

芋畑や年とさる栗の花
毛虫にもならで落ちけり栗の花
よすがらの花栗匂ふ山の宿
栗の花茶屋一軒を隠しけり

[redacted]

[redacted]

[redacted]

百日紅

てらてらとわらもは咲かず百日紅
金閣寺と人ふりなすり百日紅
墓に花ゝ仏埃も有り百日紅

国立国会図書館　タイトル『寒山落木 : 1-5』 請求記号 WB12-19
ガラス使用

石榴花

鬼のゝ子のまゝ頑是なし　花石榴
下闇や力がよしき　花石榴

五月躑躅

青き中に　五月つゝじの盛りゝ

青梅

青梅や低地老いて咲ひ来
青梅を　必ず注きり　杜鵑川
青梅の　[illegible]
青梅の　[illegible]
[illegible]

梅の実の　[illegible]て黄なる　青きかな
根岸
青梅や黄梅やうる軒らんぷ○

夏桃

くいながら夏桃たのりてぎり
夏桃いまゞ毛の多き　苦さゝ

李実

虫はみて一枚赤き李　うれ
広さきに　幾ゐを経たる李ゝ

国立国会図書館　タイトル『寒山落木 : 1-5』 請求記号 WB12-19
ガラス使用

桑實

桑の実や本ばたわづらふる順番

青蔬

蕓の目の色とりどりに秋林

筆

筆や中殿の傷まだ土

筆やれ赤いながら床柱

筆や垣の横渡つんぬいて

庭先の筆ならぶ小ぶ

実方中将の墓にて

君が墓筍のしびて二三間

若竹

○白寺の筆あすもあすもうれ

若竹やあどけない顔の雀の子

若竹の面になるべき細り

若竹の筆になるべき細り

若竹の直をんとのびる小

うぐいすぶ蛙の居らぬ今年竹

保てきのあるもしらぬ今年竹

笛賛

若竹の昔にまさる雀ず

所新とりふ蛙あり今年も

竹落葉　牛の寄舎の沼ちの葉ふる

椎桐花　椎桐の花園の[illegible]空より

茨花　牧苗の陰下る中花茨

宵闇に牛の白しや茨の花

金はいる茨の花垣無住し

○茨さくや根岸の里の貸本屋

○

茨咲くや園四うして牛遊ぶ

牡丹

[illegible]

中[illegible]牡丹

義仲のうしがりそ紅牡丹

紙幡をして女業をする十万牡丹

鬼神にあるまじき世の牡丹ゆ

植木屋にたちぶん鳥の牡丹ゆ

金屏の奥にそぐ[illegible]牡丹ゆ

雪洞に一輪うる牡丹ゆ
欄干に楊貴妃眠る牡丹ゆ
大きさハ禿の顔の牡丹ゆ
低堆の瓶にしほみし牡丹ゆ
金屏や一輪牡丹瓶の中
[illegible]
世の中ハ牡丹のあるもし
牡丹咲て美人の鼾少入ゆ
白牡丹三十六宮の夕ゆ
作[illegible]

芍藥

芍藥ハすしてねたる美人ゆ
[illegible]

紅花

低堆ハ用ハ[illegible]の花
低城ハ冥をつくる紅ハ花

燕子花

牛飼ハ水濠ハうもれて茂る花
うつくしき月ニるもれ白茂る花
花一つ涙に打れこむ茂る花
[illegible]燕子花

仏陀が筆のすさびや蓮の花

病中

菊自由の咲れけん牡丹

八橋図

蓮の葉の川の蒸す花

花菖蒲

風吹てそよぐ菖蒲

那須野

折られける菖蒲の東の葉ゆ

病中

人の来て咲くとりなる花菖蒲

杜若

人花

藻花

浅香沼

藻の花の菖蒲の月の遠の

萍花

萍のかくれなる嵐の風吹て萍動く花なれら

萍の横帽ーしらぬ浮世ゆ

傾城賛

萍のさそりしやもき嵐し

河骨

○河骨の水を出る茎し　碧○

河骨の花ほくそそぐ見えたる

新汁や河骨しるむ門の宿

菱花

六角に菱をみそろへて菱の花

かゝまつて菱の花ゝ小池し

蓮葉

巻葉上に高く浮葉下に廣がる蓮也此時

蓮花

白蓮の香にむせかへる小庭し

[illegible]女の後世の蓮の姿

かたなりに花吹きこぼす蓮し

月を湛へて錦鯉露の玉をけらひあへす蓮

情怜や蓮の茎に一つ〻

山水をすてる小池や蓮の花

蓮さゝやかに水すてる水溜り

日の〻〻や蓮の花咲く音すし

山石

蓮の花さくや洛しき傳車場

追善

極楽や清水の中に蓮の花

遊女賛

泥水をあんせぬ蓮のさかりかな

ちりうけば咲うてあの蓮の花舟

蓮切て牛の背なる童子

蓮持て人中ゆきぬる一人

[illegible]

紫陽花

門前の老婆利を貪る蓮の花

[illegible]

紫陽花や浴衣かわるく藍の色

紫陽花や赤にさしあぶ面ぬき

紫陽花や原ぬき車の砂ほこり

紫陽花や長くとどまる仙城

紫陽花やはなだにかゝるさゝふく

[illegible]

始めて紫花をたゝく

紫陽花やふかくなるまで咲く

鉄刀花筒画賛

ゆかしらんあすは咲花何の色

傾城賛

紫陽花やきのふの誠きのふ嘘

撫しこ

撫しこの壁ちかくる牛の小屋

撫しこの中遅ひの花蘆養

撫しこの河原に立て大井河

撫しこの我から伏して咲にけり

撫しこの多しを枕

花陰に撫しこる咲きし山ふかし

牛のこの年なつかしや撫しこ

陸奥の旅に古風の袴をもたる

女をうらやましてそ

撫しこるやものなつかしまきぶり

羽織の袴

○當ぎ〳〵撫しこるの上に伽羅けり

陸前國愛宕村

見もたらぬ愛宕の村の地撫しこ

[illegible]

百合花

[illegible]

鬼百合や草葉の一むら

山百合や崖にあふれて山の道

弦いろんで垣ぬけ出る一百合の花

[illegible]

[illegible]の崖にも百合の花

うつむく思案にはら百合の花

下闇にたぐ山百合の白さかな

十画賛

田舍旅宿

つま山に松ぬけ出る一百合の花

萱草

萱草や茶屋のつま山苔むす

那須

萱草や青田の畦の一ならび

葵

雑人の塀にのぼりし葵かな

御陽成の寺の塀に咲く葵かな

簾ごし或御寺赤き葵かな

芙蓉花

花一つ〳〵転もて葵に
順ふに従ひてなほ葵に
従がふの如く千佳〳〵花葵
心中のけがれ〳〵の誠のけ〳〵の花
也夏もしめでたうちりぬけ〳〵の花
入相や法体〳〵たる芙蓉坊主
一体や芙蓉の坊主を見たる
花芙蓉に親る五人の世帯に
埠近集
ちりぬる花心苦しう芙蓉の花

夕顔

夕顔や裏にのぞく侍一人
夕顔やどの逆寺の山たて
夕顔や牛を引ある宿の春
夕顔やあら壁荒ちて寒の夜
夕顔や三味の音たる盲馬
夕顔に女世帯のかなしれ
夕顔に孫と爺つく現うれ
夕顔に何慨悔苦菜の飯

田舎傾城賛

夕顔に昔の小唄ありけり

夕顔にめしふかさのかな

書顔

[illegible]

書顔に茶色の陸の狂ひ咲

山里の桑に昼顔ありけり

[illegible]

碧

釣鐘草

[illegible]

夏菊

[illegible]

有所思

人知らずかれ夏菊を生すこ

[illegible]

十薬花

十薬や何を極るてもなき地

一茎をたゞ十茎の白ひら

苔花

金閣や金箔をぬる苔の花
鴻の巣を
ぬくもり残る床几に
苔の花
月黒
其骨に苔の咲くなり小寒

風蘭

風蘭や軒にもたれて枯の枝
[illegible]
風蘭のほのかたもつ[illegible]

凍霄花

凍霄に知らぬ木に凍霄のさかりに
凍霄や一つ咲残る花のうら
飯阪妓廊
凍霄やかりうする縁の小低坪

苑

細帶の女 端居す 弱り苑

一ッ葉

一つ葉の二葉の時を見ぬきさ
一つ葉ゆれてをる物の陸に
一つ葉の風にもまれうきに

[illegible]

世の中をあはれみ捨てし一つ葉ぞ
引けど尚なほ[illegible]ぬるかな

蘭州

[illegible]

蘭干

蘭干や一節あけてはらに

海蘿干

鐘愈や[illegible]のうらにおのり干

蕎草

早十四

蕎草や渓流に美人の墓[illegible]
夏草[illegible]
惟然[illegible]

麥

きらきらと山を[illegible]麦[illegible]
麦の穂に雲雀の宿[illegible]
一人子の風揚りけり麦の秋
麦秋や中国下る旅行者
州麥の産金山とうらいけり
麦刈るや[illegible]

蔦一川

鳴雷のかすかなるあはれ深しこの
句を翁と共に伊賀に行かるべき筈なりしを
なくなりはて俗世の人となり
なりはてし
風流の手帳に残し来年の表
霧亭
雪院の傳い表をつくところ

碧

早苗

植じまい知る人早苗の一たばね
小山田に早苗とるなりは一人

春

鶯

落

蓼

風吹てくるよりきたる春の
まちうけ草はなつかしき
春雨に一枝の梅の花ぬれ
蕗の葉を傘にさしたる姿
うき人にくいせてくんだる蓼

覆盆子

旅人のつみのこしたるいちごかな

はら〳〵と咲にこぼるるいちごかな

頂上のたゝぐらぬいちごかな

旅人の通路にこぼるるいちごかな

旅人の通はいあるるいちごかな

屋のけて通路すゝむいちごかな

いちごをるもとを殺山寺りう

でさば塚にくる

旅路なれば踏るいちごを手ちん

瓜の花

蛙を追ふ蛙の力や瓜の花

瓜

何ぞ瓜の花さきたり瓜の皮

瓜二つをたさうする禾うれ

瓜ぬすむあやしやたれ誰やらん

糾瓜

狂言のもつまでぬすむ真桑瓜

[illegible]

旅僧のぬすつたる真桑瓜

[illegible]

[illegible]をむかん宵月和

奥州旅中　二句

[illegible]やさ[illegible]

[illegible]やすむ[illegible]

[illegible]やすんで

[illegible]の初[illegible]

茄子

浪人の畠にわせる茄子かな

[illegible]

少なる大茄子

胡瓜

[illegible]

東京に世話りやすき胡瓜かな

[illegible]胡瓜をまたぐかな

[illegible]

[illegible]ぬ胡瓜

小角豆

牛[illegible]かつぎ[illegible]

南瓜

[illegible]

秋

立秋

嚴骨に行ひらひら今朝の秋
[illegible]に昇るや今朝の秋
むく起ゆふべ一つ今朝の秋
老僧が拂子ゆゑ今朝の秋
[illegible]今朝の秋
[illegible]のいつとても今朝の秋
秋立つと知らずや人の水鏡
禪寺に秋立つ壁の破れ小

相の美をゆきぬ　今朝の秋
秋やけさ　ゆくひとたるむ　花
風流のちらしくとも　秋の立ぬり
今朝の秋　夏かなあれ　れたり
長崎に　袖濡に　秋の立ぬ　けり
[illegible]　秋
西京　水に　士のふしけさの　秋　碧○
最上川
[illegible]　川
旅人や　秋立
つ　秋の　最上　川

初秋

旅の秋立つ　や　六月上の　秋入　中
[illegible]　秋　来る　三月　移
初秋の　馬　洗ひけり　最上　河
初秋や　出羽　あ　人の　[illegible]　秋
初秋や　月　を　流す　最上　河
初秋や　相　に　詰る　松　つて
初秋の　[illegible]　秋　[illegible]
初秋の　庫　[illegible]　秋　[illegible]
初秋の　一日　[illegible]　[illegible]
七月の　旅　[illegible]　[illegible]

秋に大きがらとなりし

文月

文月の頃にうつす星の影

七夕

星の夜に誰をや川を渡る舟

盆過

盆過の村静かなり精進し

残暑

学校の生徒やすむ涼風

家の向き一西に涼るるを

秋の勢を人うて夏の残暑

最上川

芭蕉帆の風よつ夏の涼りけり

出羽山形の時残暑はげ

山未見来なれば菓子少し

なる茶屋の茶代ありて夏に

きはめて

松風の價をねぎる残暑

すさし

水色のすさしさ

妙義山

雨すし月はかすむすさしき

肌寒

肌寒や花崗岩の岩肌

湯田温泉

肌寒み昼ぬるまるが温泉の気

うそ寒

きぬぐぬや柳の風のうそ寒し

朝寒

朝寒や青菜ちらぶる市の法

朝寒や看板波ゆる氷店

身に入む

俳諧の地身にしむ二人ゐ

唱雪翁を訪ひて

秋寒

雨はるかすさしき

秋寒し一眼の光は鬼女の面

夜寒

銭湯に端唄のきこゆる夜寒かな

平家琴小野の顔は夜寒かな

塵一重生人形の間も夜寒かな

小北吉左の伸びてゐる夜寒かな

侍一人並ぶ風呂や夜寒かな

老侍の面部かがやく夜寒かな

壁ぬりてとりもとの夜寒かな

白い塀のくもり消えゆく夜寒かな

桃竹の側へ通ふ夜寒かな

おゆて竹を叩きたてる夜寒かな

書中の涙墨にうるる夜寒かな

文机よりもれ入る夜寒かな

[illegible]

本海をよせてゐる夜寒かな

樹の梢乃至に光る夜寒かな

夜寒をちもれば城の木

品川

俗城乃海を背にする夜寒かな

神田祭

夜寒まの梢天王の勢ひかな